

陸上運動部部便り

2004 年 10 月号

京大戦・箱根予選会

目 次

1 京大戦	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	2
1.3 女子主将の言葉	2
1.4 試合経過	2
1.5 試合結果	7
1.6 主務より	9
2 箱根駅伝予選会	10
2.1 監督の言葉	10
2.2 長距離チーフの言葉	10
2.3 大学院駅伝主将の言葉	10
2.4 選手の言葉	11
2.5 試合結果	14
2.6 主務より	15
3 新主将・新女子主将・新主務の言葉	16
3.1 新主将の言葉	16
3.2 新女子主将の言葉	16
3.3 新主務の言葉	16
4 2004 年度部内 5 傑 2004.10.11 現在	16

1 京大戦

1.1 監督の言葉

力はある程度出せたが 監督 八田 秀雄

京大戦は 10 月 2 日西京極競技場で行われました。午前中小雨でしたが、昼前にはあがりました。七大からすれば男子は苦戦、女子は大丈夫かということです。そして結果はやはりというかで男子は 40 点負け。女子は 7 点勝ち。ただし内容から

言えば七大よりは、かなり力は出せたとは思っています。最初の 100m で米田と式場で 1,2 位をとり、走高跳で 5 点勝ちなどリードしました。さらに 110mH で田中が 1 位をとり、4 × 100mR でも勝つなど、午前中の内容は互角に近かったです。しかし午後になって 400mH、砲丸投、やり投と大量点を取られて差がつかしました。それでも棒高跳の持永の 1 位や最初から独走の松本が 5000m で 14'43"21 などが出ました。40 点差がついたのは、400m、400mH、砲丸投、ハンマー投、やり投で 1,2,3 位をとられた計 45 点分が大きく影響しています。この試合では穴種目を作らないこと、というのがはっきり出ました。一方ベストを出した選手も多くいます。そして 1 位の数では 10 -8 で勝っています。一方 6 位の数では 11-5 ですから、これが最終的な大きな点差になりました。大変残念ですが、これをどう考えるのかは、人によって考えの異なる問題のように思います。大敗で怒鳴りつけるのも 1 つでしょうが、個々をみればかなりやれた選手も結構いる点は評価してもよいのではと思っています。私自身今回はとにかくプラス思考で、選手がそれぞれ自分の力を出すということを考えようと思っていました。ある程度はそれができ、今後につながる戦い方はできたと思っています。

女子は最初からリードして、安心して見ていられました。特に塩入が 100m,400m の 2 冠、400m の大会新 58"81 だけでなく、800m にも出て 2'18"83 が光りました。目黒も 800m2'16"60 の大会新。二人が 2 分 20 秒を切るハイレベルなレースでした。目黒が 400m を走れないアクシデントも問題ありませんでした。

男子の結果は残念ですし、長期的に考えれば反省すべきことは多々あるでしょうが、七大からみればよい方向には向かって来たという率直な感

想も持っています。しかし何も知らずに見に来られた方には、楽しくない試合であったことと思います。ともかくも今後とも皆様のご支援をお願いします。来年は小林先生定年退官の年になりますので、余計に何とか結果を出したいと思います。

1.2 主将の言葉

主将 式場健太

今年度の京大戦は、10月2日に京都の西京極競技場で行われました。七大戦の結果を勘案すると相当の苦戦が予想されており、我が東大陸上部がどこまで食らいつけるのか、戦う前にはチームを率いる主将として正直不安だらけでした。結果として40点近い差で敗北しましたが、現在のチームの力を考えるとこれが精一杯ではなかったという気がします。天候や記録の出にくいタータンのせいでめばしい記録はなかったものの、個人個人は対校戦における自分の仕事だけはきっちり果たし、さらに隙あらばどんどん上位を狙うという貪欲な姿勢を見せていました。僕が1年間を通してチームのテーマに掲げてきた『勝ちへの意識』が部員のあいだに浸透し、わずかでも形になって表れたことは評価できることであり、敗北したとはいえチームとして成長できたのではないかと感じています。とはいえ、主軸だった4年生が抜けることでこれからはさらに厳しい状況に立たされることになるでしょう。来年は東大陸上部復権の年にすべく、3年生以下の部員はますます精進してくれることを期待しています。そして最後になりましたが、主将としての活動をサポートしてくれたOB・OGの方々、そして部員みなさんにこの場をお借りして感謝の意を表したいと思います。1年間本当にありがとうございました。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 塩入敦子

10月2日、西京極陸上競技場で京大戦が行われました。今年は、トラックの東大対フィールド

の京大といった戦力図で、例年にない接戦が予想されました。しかし、最も心配された走幅跳で小原(2年)が2位に食い込む健闘を見せ、砲丸投でも本間(1年)が1位を確保して苦手なフィールド種目での負けを最小限にとどめると、トラックでは5種目中4種目で1位をとり、結果的には危ない試合運びで総合優勝を勝ち取りました。さらに、400m、800m、3000mで大会記録を塗り替えることができ、今年度最後の対校戦を良い形で終えることができたのではないかと思います。多くのOB・OGの皆様に京都まで足を運んでいただき、声援を送っていただいたことが、大きな後押しとなりました。ありがとうございました。

この京大戦をもちまして、後輩たちに部を引き継ぎます。1年間温かいご支援ご声援をいただき、ありがとうございました。新しい女子チームにも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

10:30 男子 100m 決勝

2レーンに相川(2年)、4レーンに式場(4年)、6レーンに米田(3年)の出場。相川はまずまずのスタートで飛び出すも、中盤から後半にかけての伸びが見られず、11"56の6位でゴール。式場はスタートの反応が良く、前半から順調に加速していき京大の選手の追撃をかわして11"13の2位でフィニッシュ。米田は、スタートがいつもよりやや遅かった感じではあったが、いつも通りの劇的な加速を見せ、10"91の1位で堂々のゴール。京大戦最初の種目であり、3点を勝ち越すことができ、先陣を切ってチームに勢いをつけた。このとき風はなかった。

10:35 女子 100m 決勝

2レーンに小原(2年)、4レーンに塩入(4年)の出場。小原は得意のスタートを見事に決め、序盤前に入る。その後も快調にスピードに乗っていき、自己ベストとなる13"19の2位でゴール。塩入は、スタートでうまく飛び出し、順調に加速していく。さらに中盤か

らの伸びが著しく、他の選手との距離をぐんぐん引き伸ばし、13"03の1位でゴール。最初の女子対校競技であり、その後の東大女子勢の活躍を予感させるすばらしい結果となった。このとき風はなかった。

10:45 男子 1500m 決勝

庄司(3年)、新井(2年)、松本(1年)の出場。高得点が期待される種目だけに、応援席の期待も高まる。スタートと同時に松本が飛び出すペースは上がらず、全員が集団のまま400mの通過は66秒。新井は集団の真ん中、庄司は後ろにつく。その後も800m通過を2'12と遅いペースは続く。しかし1000mで庄司が仕掛けると、一気に集団が崩れペースが上がる。ラスト300mでの勝負になるが、スプリントで勝る京大の岡本が抜け出す。松本、新井が岡本のスパートに必死に追いつけるが結局振りきれ、松本が4'01"86で2位、新井が4'02"74で3位となった。仕掛けた庄司はラストで少し遅れてしまい4'07"97の自己ベストながら5位。対校得点の面では勝ち越したとはいえ、1点勝ちに止まり、残念な結果に終わった。

11:45 男子 400m 決勝

2レーンに田中佑(3年)、4レーンに沖田(1年)、6レーンに伊勢田(2年)の出場。持ち記録で上回る京大勢に対し、今季奮わない東大勢がどこまで食らい付けられるかが焦点となった。1年生ながら期待が集まる沖田は、苦手のスタートで遅れをとるがそこから徐々に挽回。コーナーで差を詰め京大の3番手に肉薄し激しく競り合うが僅かに届かず4位(50"84)でゴール。エース格の伊勢田は、京大勢を追いバックストレートを疾走するが、練習不足からか思うようにスピードに乗れない。250m付近で沖田にかわされると最後の直線でも伸びず、5位(51"31)に終わる。田中は前半を自重気味に走り後半に備えるが、走りに力みが見られスピードが上がらず、レースに参加できないまま6位(52"87)でゴール。残念ながら下馬評を覆せずスコンク負けを喫した。

11:50 女子 400m 決勝

2レーンに塩入(4年)の出場。京大が一人

棄権したため足に不安を抱える目黒(4年)は棄権した。両校一人ずつの寂しいレースとなったが、塩入は周りを気にすることなくスタートから快調にとばす。バックストレートに入り早くも京大をとらえると、あとは記録を目指して一人旅。最後までスピードは衰えることなく、58"82の大会新で優勝した。これで塩入は100mとあわせて2年連続となる個人種目2冠を達成した。

12:10 男子 110mH 決勝

2レーンに林(2年)、4レーンに田中(4年)、6レーンに梅沢(2年)の出場。スタートでは林と梅沢が出遅れ、田中と京大勢3人の4人が前に出る形となる。田中は序盤、四人の中で2,3番手につけていたものの、中盤から徐々に前に出て、6台目付近で先頭に出る。そのまま少しずつ差を広げて1位15"48でゴール。念願の初優勝だった。梅沢は4人にくらいついていくものの5位16"19、林は大きく遅れて6位16"85となり、1位をとったものの、この競技3点負けとなった。このとき風はなかった。

12:30 男子 4 × 100mR 決勝

4レーンに、瀧山(2年)-式場(4年)-相川(2年)-米田(3年)の走順で出場。スタートで瀧山が出遅れ、京大との差ができてしまう。ところが、京大の1走から2走へのバトンが失敗し、2走がかなり出遅れる。この間に瀧山から式場にバトンが渡る。式場はバトンを受け取った瞬間から一気にスピードに乗り、外側の京大を追い抜く。式場から相川へバトンが渡り、相川はカーブを順調に走るも京大に追いつかれ、両者ほぼ同時に4走へとバトンをつなぐ。4走米田は十分なスピードに乗った状態でバトンを受け取り、その後も順調に加速して相手との距離をぐんぐん引き離してゴール。42"47の1位であった。京大は1走から2走へのバトンパスがオーバーゾーンとなり失格であった。

12:45 女子 800m 決勝

目黒(4年)、塩入(4年)の出場。京大勢との実力の差がはっきりしているこの種目では、中距離エースの目黒と、この日400mで58秒台

の大会新を出して好調の塩入との一騎打ちに注目が集まった。塩入は大学で初の 800m のレース。目黒はいつも通りスタートから快調なペースで飛び出し、400m を 65 秒で通過。塩入はやや自重した入りで 400m は 68 秒。2 周目に入っても目黒のペースは衰えなかったが、600m を過ぎたあたりで疲れが見え始める。そして、塩入が差を少し詰めたかに思われたが、目黒はラスト 100m で見事なスパートをかけ、塩入を再び突き放して 2'16"60 の大会新で第一回大会からの三連覇を達成。最後の対校戦で 800m ランナーとして有終の美を飾った。しかし目標にしていた全日本インカレ標準は今後に持ち越しとなった。塩入もレース経験の少なさにも関わらず、2'18"83 の二位で同じく大会新。東大女子の強さを見せつける結果となった。

13:15 男子 200m 決勝

2 レーンに瀧山 (2 年)、4 レーンに式場 (4 年)、6 レーンに米田 (3 年) の出場。瀧山は、スタート直後足に痙攣を感じ、スピードが出せないまま 23"62 の 6 位でゴール。式場は、ここでも調子のよいスタートを見せ、コーナーを曲がった時点で 3 位につく。ところが後半失速し、京大勢の追い上げをかわせず 22"42 の 5 位でゴール。米田は、スタートが大成功してそのまま一気に加速。直線に入った時点で独走状態にあり、そのまま安定した走り逃げ切り、22"12 の 1 位でゴール。2 位以下は混戦状態であり、2 番手・3 番手が勝負の鍵を握ったレース展開となった。このとき向かい風 0.6m であった。

13:40 男子 400mH 決勝

2 レーンに坂田 (2 年)・4 レーンに伊勢田 (2 年)・6 レーンに磯辺 (2 年) の出場。今季東大に 60 秒を突破した選手がいない中、400m が専門の伊勢田がどこまで食い下がるかがポイントとなった。スタートを切るとインの坂田はスローな入りで遅れをとるものの、伊勢田・磯辺は京大勢と互角に渡り合う。しかし、地力の差から徐々に差を広げられ、必死に粘る伊勢田も僅差で破れ 4 位 (57"21)。終始マイペースを保った坂田は後半もよく走

り、5 位 (60"67) でゴール。前半で力を使い果たした磯辺は、200m 以降粘ることができず、最後は坂田にもかわされ 60"82 の 6 位に終わった。400m に続きスコンク負けを喫したが、三人とも自己ベストを更新した。

14:00 女子 3000m 決勝

清水 (2 年)、向田 (2 年) の出場。4 名で行われ、スタートすると、向田は自重して 2 番手に、清水は 4 番手になり、400m を 85"で通過。800m 付近で清水は自分の走りに切り換え、集団から離れていく。1000m を 3'34"で通過し、1200m で向田が前に出る。1600m で京大の選手が 1 人離れ、2 人の勝負になる。2000m を 7'20"で通過すると、京大の選手がペースを上げ、向田は離れてしまう。そこから向田は追い上げたが間に合わず、11'05"05 の 2 位でフィニッシュ。清水も 11'52"45 の 4 位でフィニッシュした。

14:20 男子 5000m 決勝

村田 (3 年)、新井 (2 年)、松本 (1 年) の出場。松本がスタートから 1000m を 2'53"のハイペースで飛び出す。2 番手は京大の西村。村田・新井は 4 人による 3 番手集団を形成し、1000m を 3'00"で通過。先頭の松本は後ろを振り向くことなく独走。2000m を過ぎると、既に出場した 1500m の疲れからか動きにキレがなくなり 3'00"/km のペースに落とすものの、ラストはきっちりペースアップし 14'43"21 でゴール。2 位以下に 30 秒以上の大差をつける圧勝で、「2 週間後の箱根駅伝予選会に向けて納得のいく走りができた」とのコメントを残した。後続は、単独 2 番手だった京大の西村が 2000m 過ぎに集団に吸収されると、牽制し合い 4 人で 2 位を争う展開。4000m 地点で村田が勝負をかけて 2 番手に躍り出るが、4300m 付近で西村にスパートをかけられて一気に集団が縦長になり、京大の 2 番手と共に疲れの見え始めた新井は離されてしまう。それでも、村田・新井共に最後まで粘りの走りを見せた。村田は 2 位に 5 秒遅れの 15'24"03 で 3 位 (自己新)、1500m にも出場した新井は 15'28"59 で 4 位と、この種目で 5 点勝ち。箱根駅伝予選会に向けて勢いをもたらしてく

れる走りであった。

14:50 女子 4 × 100mR 決勝

4 レーンに小原 (2 年)-塩入 (4 年)-津村 (4 年)-目黒 (4 年) の走順で出場。1 走小原は前を走る京大との差をきれいに詰め、2 走塩入に渡るときには見かけ上の差もなくなるような状態だった。そのまま塩入は実力差を見せ付けるように差を広げ、3 走津村に渡る。ここでも無難にレースは進み、3-4 走のバトンが少しもたつきはしたものの、アンカー目黒まで、差を詰められることなくゴール。1 位 51"92 で女子総合優勝に花を添えた。

15:00 男子 4 × 400mR 決勝

3 レーンに 1 走伊勢田 (2 年)-2 走村井 (3 年)-3 走沖田 (1 年)-4 走式場 (4 年) の走順で出場。既に対校戦の負けが決まっていたが、最後に京大に一矢報いたいところ。1 走伊勢田は疲労のためか徐々に後退し、インの京大に追い抜かれてしまう。最後の直線でも粘りを見せられず、大きく水を開けられてバトンパス。2 走村井も京大にコーナーで差を広げられると動きが固くなり、本来の走りを見せられない。後半持ち直すも差は縮まらず、苦しい展開で 3 走沖田へ。独走状態となってしまった沖田はペースがつかめず、力を出し切れなままずるずると差を広げられてしまい、バトンはアンカーの式場へ。主将の意地を見せたい式場だが、この日 4 本目となるレースで脚は限界に達し、バックストレートでは吊りかけた脚をかばうぎこちない走り。それでも後半はスピードを上げ、3'24"68 でゴール。京大とは 6 秒近い大差がついた。京大にまったく歯が立たなかった東大ロングスプリント陣には来季の奮起が望まれる。

フィールド

10:30 男子 走高跳 決勝

田中 (4 年)、藤田 (4 年)、宮 (2 年) の出場。朝 1 番の跳躍種目だが、雨で路面がすべりやすい悪コンディションの中試技が開始された。藤田は 1 点を確保するために慎重に 1m60 から試技を開始し、1m60,70,75 とともに余裕のある跳躍で続けてクリアする。1m80 も 3 回目で

クリアしスタンドを沸かせるが試技数差で惜しくも 5 位。専門外の種目だがしっかり役割を果たした。田中は 1m75 を跳ぶが、1m80 を 2 回失敗し窮地に立たされる。しかし、落ち着いて 3 回目でクリアし続く 1m85 を 1 回で跳び京大勢に対して優位に立つ。宮は 1m80,85 とともに 1 回で跳び、京大が誰も 1m85 をクリアできず、この時点で東大 1,2,5 位が確定した。宮は 1 回で、田中は 3 回目で 1m90 に成功したが、続く 1m95 は兩人とも跳べなかった。宮が優勝、田中が 2 位となった。接戦が予想されていたが各選手が集中してきちんと結果を出し、幸先よいスタートとなった。

10:35 男子 ハンマー投 決勝

池田 (4 年)、合田 (2 年)、庄司 (1 年) の出場。競技は雨天のなか補助競技場にて行われたが、サークルが大変すべりやすくなっており、やや難しいコンディションとなった。池田は終始安定した投擲をみせるが、惜しくも自己ベスト更新はならず、25m01 の 5 位で競技を終えた。合田は 4 投目に 33m02 をマークし、自己ベストとする。しかし 3 位争いに競り負け、3 位と同記録の 4 位で終わった。庄司はハンマー投げの試合経験は浅いものの、落ち着いた投擲を見せる。前回に続き自己ベストを更新し、18m01 の 6 位で競技を終えた。

11:30 男子 走幅跳 決勝

吉岡 (4 年)、藤田 (4 年)、竹内 (2 年) の出場。吉岡は終始安定した跳躍を見せ、6 跳目に 6m67 を跳んで 6 位。藤田は 1 跳目に 6m71 を跳んで一位につけ、その後は足が全くあわず記録を伸ばすことはできなかったが、1 位はキープした。竹内は 1 跳目に跳んだ 6m60 を最後まで伸ばすことができず、吉岡の 6 跳目の記録に抜かれ、最終的に 4 位であった。結果 5 点勝ち越した。

11:30 女子 走幅跳 決勝

小原 (2 年)、本間 (1 年) の出場。小原は練習の成果が出て踏み切りがうまくいき、徐々に記録を伸ばして 4 跳目に 4m58 を跳び、見事 2 位となった。本間は、助走がうまく走れず

なかなか記録が出ない。あと 4cm の差で京大の 2 番手に届かず、4m32 で 4 位に終わった。

11:45 男子 円盤投 決勝

合田 (2 年)、庄司 (1 年)、小林 (1 年) の出場。全体的に、小雨のため滑りやすくなったサークルに苦勞する展開となった。合田は 1 投目に 35m00 の記録を残し、その後の投擲では 34m 台の記録を残すものの、1 投目の記録を超えることはできなかった。しかしこのまま逃げ切り、事前ランキングのトップにふさわしい貫禄を見せて 1 位となった。庄司は、スタンディング投げで 1 投目に 25m95 の記録を残した。2 投目からターン投げを試みるが低調な記録に終わったため、後半 3 投をスタンディングで投げ、そのうち 4 投目に記録した 26m57 で自己ベストを 10cm 程更新し、5 位になった。小林は、1 投目をファールしたものの、4 投目 (24m80) など前半から自己ベスト (24m82) に近い記録を残した。そして、最終 6 投目では自己ベストを 1m 以上更新する 26m01 の記録を残し 6 位となった。

13:15 男子 棒高跳 決勝

持永 (2 年)、佐野 (2 年)、関原 (1 年) の出場。2m40 が持ち記録の関原は 14 フィートのポールを初めて曲げ、2m90 を危なげながらも 1 跳目でクリア。ここで得意の槍投げと時間が重なっていることもあり、また 3m00 を跳んでも上位に絡むことができないと判断し、後の高さをパス。自己ベスト更新の期待がかかる佐野は 3m00、3m20 としっかり跳んでいく。3m30 はクリアランスなどまだしっかりできないものの、何とかクリア。3m40 は高さはあったがクリアランスがうまくできずに失敗、ここで試技終了。先日 3m80 を跳んだ持永は、3m40 から跳び始め、3m40、3m60 と余裕のある跳躍でしっかり跳んでいく。3m70 は 1 跳目突込みが潰れて失敗したが、2 跳目は多少修正することができなんとかクリア。持ち記録が持永より上の京大生がチップのタータンなどに苦しみ、京大生は 3m70 で 2 人失敗する。3m80 は持永と 3m70 をパスした京大生の一騎打ちとなったが、2 人とも跳べずに試技終了。結局持永が 3m70 で優勝、

佐野が 3m30 で 5 位、関原が 2m90 で 6 位で終わった。

13:30 男子 砲丸投 決勝

合田 (2 年)、小林 (1 年)、庄司 (1 年) の出場。雨も完全に上がり、悪くないコンディションの中、競技が開始される。1 投目から小林は、自己ベストを大きく更新する投擲をみせ、調子よくスタートする。しかし 2 投目、京大の 3 番手が逆転、1 位 2 位 3 位を独占される。小林が 5 投目に 10m73 を投げるも届かず 5 位。合田も 3 投目以降、肘を気にしつつも砲丸を最後まで突き出す投擲で再逆転を図る。しかし朝からの疲れもあったのか、3 投目の 10m87 を上回る投擲ができずに 4 位に終わる。庄司は 1 投ごとにアドバイスを受けて記録を伸ばしてゆき、6 投目に 8m69 を投げ、自己ベストを更新して 6 位となる。

13:30 女子 砲丸投 決勝

津村 (4 年)、本間 (1 年) の出場。二人とも疲れが出てきたのか、記録が伸びない。しかし、津村は 6 投目に自己ベストにせまる 5m57 まです記録を伸ばし、4 位であった。本間はだんだん投擲にきれがなくなってきたが、2 投目に出した 6m92 のまま何とか逃げ切り、1 位になった。

14:00 男子 三段跳 決勝

藤田 (4 年)、佐野 (2 年)、倉員 (1 年) の出場。午前中からの小雨は上がったが、若干の向かい風が吹く今ひとつのコンディションの中の競技開始。藤田は走幅跳のときからうまくまとまらない助走の跳躍が続くが、何とか 14m26 を記録しトップに躍り出る。その後記録は伸ばせなかったものの、最終跳躍ではステップまでとてもまとまった跳躍を見せた。佐野は棒高跳の直後だったことも響いてか、スピードも力強さもない跳躍を繰り返す。12m79 を残すのが精一杯という、いいところのない試合内容だった。倉員は 1 跳目に無難に 13m63 を跳んだ後は記録を伸ばしにかかるが、これをやや下回る記録ばかりで伸ばすことはできなかった。しかし故障明けの一戦にしてはまずまずの結果であった。この

種目では 1,4,5 位となり、1 点勝ちのほぼ予想通りの結果に終わる。

14:20 男子 やり投 決勝

池田 (4 年)、田中 (4 年)、関原 (1 年)、の出場。この種目では京大勢は全員シーズンベストが 50m を超えており、苦しい試合となった。池田は 1 投めから快調に 45、46m 台を出し続け、5 投目には 47m46 を出して 4 位。田中は助走をあまり投擲に生かすことができず 6 投目の 42m32 で 6 位。関原は 50m を狙ったものの、1 投めから全くリズムに乗った投擲ができず 4 投目の 44m99 で 5 位であった。

1.5 試合結果

第 77 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会 第 3 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会

於 西京極総合運動公園陸上競技場
(H16.10.2)

男子 100m 決勝 (± 0.0)			
1	米田武史	東京大	10"91
2	式場健太	東京大	11"13
3	松井延行	京都大	11"16
4	藤井章輔	京都大	11"23
5	北垣卓	京都大	11"39
6	瀧山健	東京大	11"56

男子 200m 決勝 (-0.6)			
1	米田武史	東京大	22"12
2	水谷太郎	京都大	22"27
3	堀江巧	京都大	22"34
4	藤井章輔	京都大	22"40
5	式場健太	東京大	22"42
6	瀧山健	東京大	23"62

男子 400m 決勝			
1	水谷太郎	京都大	49"08
2	藤崎淳	京都大	50"13
3	村地優樹	京都大	50"34
4	沖田朋慶	東京大	50"84

5	伊勢田明弘	東京大	51"31
6	田中佑貴	東京大	52"87

男子 800m 決勝			
1	岡本英也	京都大	1'57"75
2	前川真彦	京都大	1'59"16
3	村井昂志	東京大	1'59"43
4	庄司一郎	東京大	2'00"32
5	磯島弘	京都大	2'00"52
6	割沢高行	東京大	2'01"29

男子 1500m 決勝			
1	岡本英也	京都大	4'01"47
2	松本翔	東京大	4'01"86
3	新井邦生	東京大	4'02"74
4	西村好康	京都大	4'04"69
5	庄司一郎	東京大	4'07"97
6	三好達也	京都大	4'12"29

男子 5000m 決勝			
1	松本翔	東京大	14'43"21
2	西村好康	京都大	15'19"16
3	村田拓哉	東京大	15'24"04
4	新井邦生	東京大	15'28"59
5	渡辺敬宏	京都大	15'34"29
6	宇部達	京都大	16'01"13

男子 110mH 決勝 (± 0.0)			
1	田中啓	東京大	15"48
2	荻澤佑樹	京都大	15"63
3	垣畑陽	京都大	15"82
4	尾崎禎亮	京都大	15"87
5	梅沢啓	東京大	16"19
6	林盛	東京大	16"85

男子 400m H 決勝			
1	水谷太郎	京都大	55"92
2	桑原昇	京都大	56"44
3	前川真彦	京都大	56"54
4	伊勢田明弘	東京大	57"21
5	坂田祐輔	東京大	60"67
6	磯部洋輔	東京大	60"82

男子 4 × 100mR 決勝

1	東京大	42"47
	(瀧山-式場-相川-米田)	
-	京都大	DSQ

男子 4 × 400mR 決勝

1	京都大	3'18"93
2	東京大	3'24"68
	(伊勢田-村井-沖田-式場)	

男子走高跳決勝

1	宮正彦	東京大	1m90
2	田中啓	東京大	1m90
3	田端康平	京都大	1m80
4	横矢龍之介	京都大	1m80
5	藤田靖浩	東京大	1m80
6	松久佳弘	京都大	1m75

男子走幅跳決勝

1	藤田靖浩	東京大	6m71(± 0.0)
2	杉本昌大	京都大	6m70(+0.3)
3	吉岡和夫	東京大	6m63(+0.3)
4	竹内昌夫	東京大	6m60(± 0.0)
5	高橋孝治	京都大	6m53(± 0.0)
6	荻澤佑樹	京都大	6m25(+0.1)

男子三段跳決勝

1	藤田靖浩	東京大	14m26(+0.9)
2	福山大典	京都大	14m17(+0.6)
3	横矢龍之介	京都大	13m78(+1.0)
4	倉員智瑛	東京大	13m63(+1.0)
5	佐野太郎	東京大	12m79(+0.6)
6	北島明文	京都大	12m53(+0.5)

男子棒高跳決勝

1	持永新	東京大	3m70
2	垣畑陽	京都大	3m60
3	浜田良太	京都大	3m60
4	平野聖	京都大	3m50
5	佐野太郎	東京大	3m30
6	関原孝之	東京大	2m90

男子砲丸投決勝

1	森川陽介	京都大	12m35
2	竹村顕大朗	京都大	12m29

3	荻澤佑樹	京都大	11m21
4	合田隆彦	東京大	10m87
5	小林宗隆	東京大	10m73
6	庄司宇	東京大	8m69

男子円盤投決勝

1	合田隆彦	東京大	35m00
2	垣畑陽	一橋大	32m69
3	森川陽介	一橋大	32m25
4	松田俊	一橋大	31m35
5	庄司宇	東京大	26m57
6	小林宗隆	東京大	26m01

男子ハンマー投決勝

1	木村克也	京都大	36m56
2	田中聡一	京都大	36m49
3	松田俊	京都大	33m02
4	合田隆彦	東京大	33m02
5	池田大行	東京大	25m01
6	庄司宇	東京大	18m01

男子やり投決勝

1	山本貴之	京都大	53m46
2	野々垣春戸陽	京都大	49m73
3	松田俊	京都大	48m89
4	池田大行	東京大	47m46
5	関原孝之	東京大	44m99
6	田中啓	東京大	42m32

男子トラック順位

1	京都大	100
2	東京大	82

男子フィールド順位

1	京都大	95
2	東京大	73

男子総合順位

1	京都大	195
2	東京大	155

女子 100m 決勝 (± 0.0)

1	塩入敦子	東京大	13"03
2	小原明恵	東京大	13"19

- 3 海野益代 京都大 13"81
4 滝上伸子 京都大 14"41

女子 400m 決勝

- 1 塩入敦子 東京大 58"82
2 林奈央 京都大 70"33
- 目黒亜由子 東京大 DNS
- 横田裕子 京都大 DNS

女子 800m 決勝

- 1 目黒亜由子 東京大 2'16"60
2 塩入敦子 東京大 2'18"83
3 岩瀬祥子 京都大 2'39"18
4 川口紗弥香 京都大 2'39"55

女子 800m 決勝

- 1 山下理絵 京都大 10'56"98
2 向田恵 東京大 11'05"05
3 中村奈都子 京都大 11'19"90
4 清水里紗 東京大 11'52"45

女子 4 × 100mR 決勝

- 1 東京大 51"92
(小原-塩入-津村-目黒)
2 京都大 54"60

女子走幅跳決勝

- 1 海野益代 京都大 5m00(± 0.0)
2 小原明恵 東京大 4m58(+0.9)
3 森村あかね 京都大 4m36(± 0.0)
4 本間諒子 東京大 4m32(+0.5)

女子砲丸投決勝

- 1 本間諒子 東京大 6m92
2 河合春菜 京都大 6m62
3 森村あかね 京都大 6m22
4 津村瑛子 東京大 5m57

女子トラック順位

- 1 東京大 28
2 京都大 18

女子フィールド順位

- 1 京都大 11

- 2 東京大 9

女子総合順位

- 1 東京大 37
2 京都大 29

1.6 主務より

応援に駆けつけてくださった先輩方をご連絡いたします。(卒年順、敬称略)

- 1958 年卒 浦野穂昌
1960 年卒 笹治 峻
1962 年卒 中尾 勝
1963 年卒 井上尚男
1966 年卒 上田 裕一
1966 年卒 土谷 喬
1968 年卒 小林寛道
1968 年卒 湯浅味代士
1972 年卒 益倉克成
1976 年卒 酒井憲二
1983 年卒 小林 徹
1983 年卒 八田秀雄
1994 年卒 工藤麻衣子
2001 年卒 岡野浩行
2001 年卒 三輪記子
2002 年卒 関水康伸
2003 年卒 相原佑康
2003 年卒 大竹洋平
2003 年卒 帰山祐佳
2003 年卒 川添雄太
2003 年卒 出口雅俊
2003 年卒 橋本 武
2003 年卒 林健太郎
2003 年卒 松林武生
2003 年卒 雪本真治
2003 年卒 和田真悠子
2004 年卒 熊丸拓郎
2004 年卒 石井康雄

2 箱根駅伝予選会

2.1 監督の言葉

箱根駅伝 監督 八田 秀雄

箱根駅伝予選会は 10 月 16 日立川昭和公園を中心とするコースで行われました。曇りで気温が 15 度前後で上がらず、8 時半のスタートから最後まで応援する側は寒く感じられましたが、走る選手にとってはよいコンディションでした。今回のコースはスタートが滑走路で幅が広く、全チームが縦列スタートができます。そして滑走路周辺を 2 周し、5 キロ過ぎから市街地に出て、最後に昭和記念公園を 1 周します。これまでより平坦ですが、最後の公園内 5 キロが起伏があります。

今回は松本の個人成績がどこまで行くか、主力が抜けて若返ったチームがどこまでやれるか、また大学院チームが出場できる、ということで見所の多い予選会でした。

最初滑走路でハイペースになることが予想されましたが、気温のせいかわち着いたペースになり、松本は 5 キロ 15 分 02 秒前後のよい感じで先頭グループにつけます。またその他の選手は固まって 17 分近い押さえ気味に入っていました。15 キロでは松本は 30 番台で、これなら選抜チームは行けると思えました。ただし最後の 5 キロでペースが落ちて、順位は個人 75 位の 61 分 20 秒。続く学内 2 位は片岡が 67 分 20 秒で少し空きましたが、彼としてはよく走りました。その後 10 位の斉藤が 68 分 38 秒とまとまってゴールでき、タイムとしては 11 時間 11 分 39 秒。関東インカレポイントを考慮すると 11 時間 9 分 49 秒で総合 22 位となり、目標としていた 11 時間 10 分を切れて、よくやったと思います。上位選手が 66 分台では行って欲しかったという点はあるにせよ、松本だけでなく 10 位以内に 1 年生が 3 人入っているし、卒業は深瀬だけなので今後が楽しみです。

大学院チームは相原が最初からよく、64 分 12 秒で 1 位。さらに小山、田坂、山崎と 6 分台で続き、ここまでは学部チーム以上の結果でしたから、よくやったと思います。一人も棄権できない中で全員走りきり、11 時間 35 分 49 秒の 28 位でした。コンディションがよかったせいもあり、学部チーム、院チームどちらもよく走ったと思いま

す。大学院まで走り続ける、という流れができたのも、大変よいことです。

さて松本は、本戦に出られないチームの選手では 23 位ですが、各校一人としていくと 8 番目になりますので、選抜チームに入る可能性がかなり高くなりました。早朝から応援に来ていただいた方々に感謝し、ぜひ次は正月の箱根駅伝で、東大の選手が走る感激を味わいたいものです。

2.2 長距離チーフの言葉

長距離チーフ 深瀬剛正

前年の予選会は箱根芦ノ湖畔で行われましたが、今年から再び立川に戻って行われました。立川駐屯地内の滑走路をスタートした後、立川市内を走行し、最後に昭和記念公園を一周してゴールするという新たなコースでした。非常に平坦なコースなためチームとしても個人としても記録が期待される大会でした。また今年は大学院チームも出場し、院チーム単独での出場は史上初ということで非常に注目を集めました。

結果は学部が去年から 1 位落とし 22 位でした。チームの目標である一人平均 67 分には僅かに及ばなかったものの、高い目標を自分達で設定し、それに向かって練習してきたという経験は、必ず来年以降につながると思います。個人としては一年生の松本が 61 分 20 秒で 75 位という結果を残し、箱根駅伝本戦の関東学連選抜チームに選ばれる可能性が生まれました。また院は 10 人が記録を残すことができ、28 位という結果でした。現役、院共に来年以降に向け、様々な意味で期待の持てる結果となったのではないかと思います。

最後になりますが、この一年間チームを支えて下さった方々、また当日朝早くから応援に駆けつけて下さった方々、チームを代表して深く御礼申し上げます。

2.3 大学院駅伝主将の言葉

大学院駅伝主将 相原佑康

昨年から話が出ていた、大学院生のみでチームを作るという構想は、無事 10 人全員のエントリーと完走というこれ以上ない結果で幕を閉じました。これは今までに例がなく、大学における陸上競技に新たな歴史を刻んだという点で大きな意義があります。今年のための単発で終わることなく、来年以降も大学院でチームを作り、学部チームと切磋琢磨していきたいと考えています。

2.4 選手の言葉

1 年 松本翔

今回は初めて箱根の予選会を走らせていただきましたが、目標はタイム 60 分 30 秒、順位 20 位以内としていました。チームとして 1 年間この大会を目標にしていたし、また個人的にもかなり重点を置き、この日までしっかり調整して、無事スタートラインにたちました。

前半はスムーズにスタートでき、ポジション取りも悪くなく、5 キロ 15 分 02 秒と、先頭集団もちょうどいいペースで入ってくれました。その後も落ち着いた展開で、10 キロが 30 分 12 秒と個人的に理想的なペースでした。しかし練習不足から徐々にきつくなっていて、いいペースなのに体がついていかない嫌な状態でした。そこで 10 キロ過ぎに専修大の座間が仕掛け、集団が追うという形になると、集団のペースアップについていけず、以下 5 キロごとに 15 分 16 秒、15 分 51 秒と苦しい走りになりました。結果的には 61 分 20 秒、75 位でゴールとなり、悔しいレースとなってしまいました。それでも大会で走っている間、本当に多くの方に応援をいただき、大変力になりました。最後の 5 キロは今にも脚が止まりそうでしたが、応援のおかげでなんとかゴールまでたどり着けたと思います。

今大会では悔しい結果でしたが、この反省をいかしてもう一度初心に帰り、しっかり鍛えていきたいと思っています。そしてもし学連選抜で箱根を走る機会をいただけたなら、応援してくださった皆様に対して、自分のいい走りです少しでも恩返しできたらと思います。

2 年 片岡哲郎

初めて箱根予選会に出場し、初めて対校選手として走りましたが、あの緊張感のある雰囲気強く感じるものがありました。結果としては、学部内 2 位ということに満足しています。しかし、院生チーム上位の先輩には離されていますし、出場選手全体を見れば、まだまだ自分より上の選手のほうが多い状態です。今回の経験を活かして、来年は更に上を目指して努力していきたいと思います。そして、応援していただいた皆様、本当に力になりました。ありがとうございました。

3 年 宮崎哲平

チームの目標を達成すべく、自分が積極的に引っ張っていきたい、と思っていたのですが、思いとは裏腹に前半から足が重く、他の選手に遅れないようにについてゆくのが精一杯でした。後半なんとか粘って学部生の中では 3 番目にゴールしたものの、大学院生の上位の方々には全く及ばない 67 分台という結果でした。万全の体調に仕上げる事が出来なかったことがとても悔やまれます。3 年生になってから、練習をしっかりとつないでいくことの難しさを痛感することが多いですが、来年は今回のような悔しい思いをしないように、精一杯練習していきたいと思っています。

1 年 石原宏尚

1 年からこのような大きなレースに参加でき、非常にいい経験をさせてもらいました。ただ自分の実力を出し切れなかったことが反省点です。もっともっと練習を積んで将来はトップ集団に絡めるようなレースがしたいです。最後に応援・サポートなど本当にありがとうございました。

2 年 千島悠司

アップが少なかったせいか、最初の 5 キロくらいまでは体が思うように動かずきつかったのですが、それから徐々に軽くなり、沿道からの多くの声援のおかげもあって、公園に入るラスト 5 キロまでは目標の 67 分を切れるペースで走ることができました。しかし、脚の筋力不足や給水を一度も取らなかったのがおそらく原因で脚が何度も攣りそうになったので、スピードを落とし、最後は多くの人に抜かれながらのゴールとなってしまい

ました。それでも、今の自分のベストは尽くすことができたと思います。来年は、最後までしっかり走りきれる脚力と経験をもって臨みたいです。

3 年 中原健二

10 日前のポイント練習で足を痛めてしまい思うように調整ができなく、レース序盤からうまくリズムをつくることができませんでした。なんとかチームの目標を達成しようと、応援して下さった皆様の助けもありまして、最後まで頑張りとおすことができました。しかし個人のタイムとしてはまったく満足のいくものではなく、今後の課題が山積みです。残された一年間で課題を克服し、チームとしても個人としても最高の結果をまた一年後の予選会で出せるよう頑張りたいと思います。

3 年 村田拓哉

目標は 66 分 40 秒を切るタイムを出すということで大会に臨みました。15 キロまではよいペースであったものの、最後の 5 キロでコースにアップダウンが出てくるにつれ一気にペースが落ちてしまい、目標のタイムには及ばない結果となりました。まだまだ自分の力が足りないことを痛感しました。またこれから一年間、自分に足りないところを補う練習をし、1 秒でも速く走るべく頑張ります。OB・OG の皆様方にはお忙しいところ応援にかけつけて頂きありがとうございました。応援がとても力になりました。

4 年 深瀬剛正

今回の試合は現役として臨む最後の試合でした。またチームとしての目標も 11 時間 10 分、一人平均 67 分とはっきりしていたので最低でも 67 分切りを目標にして走りました。結果はチームとしても個人としても目標に一步及ばず、悔しい結果に終わりました。最後の一年にチームを引っ張らなければならない立場にありながら、怪我等でチームのみんなと一緒に走れない時期がかなりありました。もっと一緒に走れていたら結果は違っていたのでは、と申し訳ない気持ちになります。自分は精一杯やったという気持ちはあるのですが、申し訳ない気持ちも強いというのが正直なところで

す。院に進んでも予選会に出場できる道ができたので、これからも競技は続けていこうと思います。この一年多くの人たちに助けられました。チームを作っていく過程で、コーチの新妻さん、前チームの田坂さんには本当にお世話になりました。競技を続けていくことで、チームに何かをフィードバックすることができればと思います。最後になりますが、当日朝早くから応援に来て頂いた方々、本当にありがとうございました。

2 年 岡田良平

序盤から思うように体が動かなくて流れに乗れず、目標の 67 分を大きく超えてしまい非常に悔しいです。実力不足の他にも調整や当日のウォーミングアップなども見直さなければいけないと感じました。それでも、多くの方のサポート・声援のおかげで最後までペースが落ちることなく、気持ちよく走ることができました。来年は結果をだせるようしっかり練習を積むと共に、ハーフマラソンにも出場して長い距離のレースに慣れていきたいと思います。

1 年 齊藤俊

今年一番目標にしていた大会だったので、出場できた事自体はとてもうれしかったが、レースの内容は満足のいくものではなかった。ラスト 5 キロにアップダウンがあったので前半は抑えて入ろうと決めていたが、10 キロ通過が 34 分 19 秒と設定タイムから 1 分近くも遅く、その後もペースアップできないままだった。初めての 20 キロのレースだったとはいえ、あまりに積極性に欠けるものだった。また、直前に風邪をひくという体調管理の甘さも反省すべき点であった。ただ、たくさんの方の声援の中で気持ちよく走ることができ、応援やサポートの方々のかけで箱根予選という大きな大会の雰囲気を楽しむことができたのはよい経験になった。冬期練をうまくこなして、来年につなげたいと思う。

2 年 黒澤徹也

結構いい感じの出だしでスタートでき、そのまま東大生の集団についていった。5 キロを過ぎて少しずつペースが上がると、自分のペースで走った方がいいのか、それともこのまま集団につくべ

きか迷っているうちに5メートルくらい離されて、決断できないままその差のまま走っていたが、9キロ手前くらいで少しづらくなってきて、20キロ走ることも考え集団から離れた。しかし一人になると途端にペースを落としてしまい結果的にはこれがいけなかったように思う。その後、いったん持ち直せたように思えたが後ろからきた集団からずるずる遅れだすとかかなり順位を下げてしまった。残り3キロでなんとか我慢したが目標としていた67分30秒には遠く及ばない69分19秒でのゴールだった。目標としていたタイムにも届かず、また学内順位としても11位とただ経験しただけで大いに課題の残る走りとなってしまったが、この経験を生かして来年のこのレースで今度は上位で競えるよう一年間しっかり練習を積んで今年の借りを返したい。

3年 稲垣誠

20キロ以上のレースは1年生の神奈川ハーフ以来、対校戦の選手として走るのは2年生の四大戦以来ということでもとても緊張しました。そのせいか何がなんだか分からないうちにスタートしてしまい、何もできないまま終わってしまいました。最低限の目標としていた70分を切ることはできたが、部内12位ということで記録を残すことができなく死ぬほど悔しいです。予選会の悔しさは予選会でしか果たせないのも、最後の1年、この気持ちを忘れずに必死に練習し、来年も必ず選手になってこの借りを返したいと思います。

M2 相原佑康

練習は積んでいたという感触は得ていたのも、院生であることの不安感は少なかった。結果、自己ベストを更新することができたので現時点では不満より満足のほうが大きい。後輩の良い刺激になれたらと思っている。競技生活も残り少ないので、これからは一日一日を大切にしていきたい。応援・サポートの皆様ありがとうございました。

M2 小山剛史

今自分のおかれている状況を考えると、今回の結果はよい方だと思います。はじめは押さえ気味に走ったことと、コースが例年と比べると平坦で

あったこともあり、脚が十分にできていなくてもなんとか走れました。そして部員、卒業生の応援もあって体が思っていた以上に動きました、ありがとうございました。それから、このレースに向けて雰囲気を高めてくれたチームのみんなに感謝します、ありがとうございました。

M1 田坂和彦

時間的制約の多かった8月中も練習を途切れさせないよう努力しましたが、体のケアや休養に時間を割けなかったために、9月以降疲労の蓄積により動きに切れが無くなり、故障気味の中での出走となってしまいました。1年以上も前から院生チームの出場を決めていたのにも関わらず、全員で集まる機会も作らずあまりに各人に任せ過ぎたために、意思統一が不十分でチームとしてのまとまりも今一つでした。しかし、初出場の手を4人も対校選手としてスタートラインに立たせることが出来たことは、対校選手枠の少ない中長距離部員にとって、学部卒業後も含めた新たな目標・精神的励みとなり、学部生のチーム力向上にもつながるという大きな意味があると思います。来年度以降も院生チームの出場が可能な見込みなので、今年得られた多くの反省点と院生チーム初出場・初完走という歴史的な結果を、来年度以降に活かして行きたいです。

この1年、予選会に出場出来ることを励みに気持ちを切らさず練習を積むことが出来ました。一緒に走ってくれたメンバーと、院生チームの出場を快く認めて下さった諸先輩方・現役部員の皆さんに心より感謝致します。

M2 山崎智裕

予選会に向けて練習を始めたのは7月下旬からでしたが、目標に向けてなんとか意識を切らさずに集中して練習できていたと思っています。そのかいもあって予選会はいいいペースで走ることができ、2年前の予選会20キロのタイムより2分近いベストを出すことができました。私は博士課程にまで進学する予定なので、来年も院生チームができれば出場したいと思っています。応援してくれた皆様、本当にありがとうございました。

M1 笹原翔太

箱根予選は今回が初でした。中距離を専門にやってきたため、距離に対する不安がややあったのですが、今の自分としては満足できる走りができました。当日、朝早くから応援に来て下さった方々、どうもありがとうございました。

M2 田辺匡亮

現状の自分の力を考えると、最高の走りが出来たと思います。しかし、相原や小山や山崎のタイムと比べると、すごいなぁと思う反面、やっぱり悔しさを感じました。もう1回、彼らと勝ち負けを競えるレベルで一緒に走りたい、というのが今の気持ちです。僕は今年で卒業してしまうわけですが、院生チームは永久に不滅であって欲しいと思います。最後にサポート、応援をしてくださった方々、大変ありがとうございました。

D2 西村邦裕

院生チームとして予選会に参加する機会を頂き、ありがとうございます。初めて予選会、20キロレースを走ったのですが、応援が多く、とても力になりました。タイム的には速くないですが、個人的には現在の力をうまく出せました。今回、予選会への取り組みを見ていて院生の目標となる試合が関カレのほか、予選会が加わるのは、良いことだと感じました。学部生、院生と切磋琢磨していけるようになると良いと思っています。サポート、応援の方々、ありがとうございました。

M2 山中邦夫

今回初めて箱根駅伝予選会に出場させていただきました。また、東京大学の対抗選手として走ったのも今回が初めてでした。新鮮な気持ちで走ることができました。しかしレース前は不安でいっぱいでした。夏前に体を壊してしまい、一体どうなることかと不安になった時がありました。時が経つにつれ徐々に走れるようにはなってきました。結局、中途半端な練習で最後に何とか調子を合わせた感じになってしまいタイムもかんばしくなく悔しく思いました。私は今回が最後の箱根駅伝予選会になるでしょうが、来年以降学部生、院生チームとして走る選手には納得のいく走りができることを祈っています。最後に応援、サポート

等は心に打つものがありました。また、ちょっとした雑談でも私の緊張をやわらげてくれた人たちがいました。無事院生チームとして記録を残せたのもその賜物だと思います。本当にありがとうございました。

M1 松崎孝大

初の大学院チームの一員として走りながら情けない結果となってしまいました。今シーズンは故障で大幅に出遅れてしまい、予選会に臨むにあたっても十分な練習を積むことが出来ませんでした。そこで、今年の予選会では、記録や順位を狙うことよりも、自分の現状の力を出しきる走りが出来ればと思っていましたが、それすらもかなわず悔しい思いをしています。ただ、大学院のメンバーに恵まれており、来年もう一度機会があることは幸運だと思います。自分にとって正真正銘最後の一年となるので精進していきたいです。最後に皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

M2 後藤理

大学院チームのメンバーとして走ることができ光栄です。練習不足が拭い去れないなかでのレースでした。最悪のタイムながらチームとして記録が残ったことに安堵しているのが率直な感想です。今回の予選会は初の大学院単独チームでの出場でした。時間的制約の都合上、現役学部部員の皆さんに諸手続きを始め、様々な負担をかけてしまったことに申し訳なく思うとともに感謝の気持ちで一杯です。また、大学院チームを成立させてくれたチームのメンバー、サポーター関係者の皆さんに感謝いたします。許されるなら、来年度も大学院チームの出場が継続されて欲しいです。

2.5 試合結果

第81回箱根駅伝予選会

於 陸上自衛隊立川駐屯地一立川市内一昭和記念公園 (H16.10.16)

総合順位		
順位	大学名	総合タイム
1	早稲田大学	10 時間 09 分 07 秒
2	大東文化大学	10 時間 10 分 34 秒
3	明治大学	10 時間 10 分 52 秒
4	専修大学	10 時間 11 分 06 秒
5	山梨学院大学	10 時間 11 分 49 秒
6	中央学院大学	10 時間 12 分 04 秒
7	拓殖大学	10 時間 12 分 24 秒
8	城西大学	10 時間 12 分 41 秒
9	帝京大学	10 時間 13 分 51 秒
以上が本戦へ出場		
10	東京農業大学	10 時間 13 分 55 秒
22	東京大学	11 時間 09 分 49 秒
28	東京大学大学院	11 時間 35 分 09 秒

個人順位		
順位	名前	タイム
東京大学		
75	松本翔	61 分 20 秒
269	片岡哲郎	67 分 20 秒
271	宮崎哲平	67 分 22 秒
278	石原宏尚	67 分 30 秒
280	千島悠司	67 分 35 秒
282	中原健二	67 分 42 秒
285	村田拓哉	67 分 50 秒
287	深瀬剛正	67 分 52 秒
300	岡田良平	68 分 30 秒
305	斉藤俊	68 分 38 秒
11 時間 11 分 39 秒		
318	黒澤徹也	69 分 21 秒
326	稲垣誠	69 分 42 秒
東京大学大学院		
204	相原佑康	64 分 12 秒
244	小山剛史	66 分 01 秒
249	田坂和彦	66 分 15 秒
259	山崎智裕	66 分 46 秒
298	笹原翔太	68 分 28 秒
303	田辺匡亮	68 分 33 秒
344	西村邦裕	70 分 51 秒

361	山中邦夫	72 分 26 秒
376	松崎孝大	73 分 24 秒
405	後藤理	78 分 53 秒

歴代記録		
順位	年度	総合タイム
1	平成 8 年	10 時間 52 分 31 秒 (19)
2	平成 7 年	10 時間 59 分 34 秒 (18)
3	昭和 58 年	11 時間 02 分 37 秒 (7)
4	平成 5 年	11 時間 05 分 04 秒 (17)
5	平成 11 年	11 時間 05 分 09 秒 (20)
6	平成 6 年	11 時間 07 分 55 秒 (18)
7	平成 16 年	11 時間 11 分 39 秒 (22)
8	昭和 55 年	11 時間 17 分 21 秒 (8)
9	平成 13 年	11 時間 19 分 19 秒 (21)
10	昭和 54 年	11 時間 19 分 59 秒 (8)

() 内は順位

平成 16 年は関東インカレポイント (1 分 50 秒) を含まない記録

2.6 主務より

応援に駆けつけてくださった先輩方をご連絡いたします。(卒年順、敬称略)

1968 年卒	小林寛道
1983 年卒	小林 徹
1984 年卒	渡辺 吏
1991 年卒	篠原 聡
1992 年卒	松浦幹太
1993 年卒	北沢剛久
1994 年卒	工藤麻衣子
1999 年卒	明石 顕
2001 年卒	佐々木和岳
2001 年卒	本田達也
2001 年卒	鈴木陽介
2001 年卒	新妻拓弥
2001 年卒	岡野浩行
2002 年卒	辻拓一郎
2003 年卒	川添雄太
2003 年卒	林健太郎
2003 年卒	松林武生
2004 年卒	岸田陽子
2004 年卒	村口和人
2004 年卒	熊丸拓郎

2004 年卒 島田俊雄

2004 年卒 岡本泰英

2004 年卒 高倉榮男

3 新主将・新女子主将・新主務の言葉

3.1 新主将の言葉

新主将 米田 武史

今年度主将を務めさせていただくことになりました短距離3年の米田です。昨年度は対校戦において勝利することがあまりできず、特に七大戦、京大戦に関しては大差をつけられて負けるという、部員としてもものすごく悔しい思いをしました。そのような状態から新体制としてまた1年始まるのですが、これからの1年間は、東大陸上部が復活するための真価が問われる1年間であると思っています。各種対校戦、特に関東IC、七大戦、京大戦、箱根予選会などでの勝利を目指し、部全体一丸となって努力をしていきたいと思えます。そして、強い東大として自他共に認められるような状態になって後輩たちにつなげていけるように努力してまいりますので、OB・OGの皆様、ご指導ご鞭撻のほど、どうかよろしく願いいたします。

3.2 新女子主将の言葉

新女子主将 向田 恵

新女子主将となりました中距離2年の向田恵です。今年度女子は七大戦準優勝、京大戦優勝、関カレに3名出場、全カレにも2名出場と、素晴らしい成績を残しました。来年度も主力の目黒さんがいなくなるとはいえ、全カレ選手の塩入さん、本間が残る上に短距離、中長距離陣も今年1年で徐々に対校戦で上位に食い込めるほどに成長してきているので、少人数とはいえ今年と同様、あるいはそれ以上の成績が期待できると思えます。この冬は来年度の七大戦、京大戦優勝という目標に向かい女子部員一同で男子部員とともに頑張っていこうと思います。私自身も女子主将の名に恥じ

ないよう更なる記録の向上を目指して頑張りますのでご支援のほどよろしく願いいたします。

3.3 新主務の言葉

新主務 木村 栄三

いつも陸上運動部にご指導、ご支援いただきまして誠にありがとうございます。この度、新しく主務を担当させていただくことになりました長距離3年の木村栄三と申します。1年間、副務として主務の世界を表面的に拝見させていただきましたが、いざ主務になってみると、不安な気持ちでいっぱいでございます。そんな私が、OB・OGの皆様にご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、主務という役職を任された以上は、陸上運動部及び陸上運動倶楽部の発展のために精一杯努力してまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

4 2004 年度部内 5 傑 2004.10.11 現在

男子 100m

1	米田 武史 (3 年)	10"69(+0.6)	5.1
2	式場 健太 (4 年)	11"12(+0.4)	8.1
3	相川 啓佑 (2 年)	11"39(+1.3)	4.24
4	瀧山 健 (2 年)	11"41(+1.3)	4.24
5	三好 信哉 (2 年)	11"72(+1.5)	5.22

男子 200m

1	米田 武史 (3 年)	22"12(+0.5)	5.15
2	式場 健太 (4 年)	22"42(-0.6)	10.2
3	相川 啓佑 (2 年)	22"69(+1.2)	5.22
4	瀧山 健 (2 年)	23"28(+0.7)	5.22

男子 400m

1	式場 健太 (4 年)	49"7	9.18
2	堀内 壮太 (6 年)	50"25	5.1
3	伊勢田 明弘 (2 年)	50"79	8.1
4	沖田 朋憲 (1 年)	50"84	10.2
5	小澤 聡 (1 年)	52"53	7.11

男子 800m

1	村井 昂志 (3 年)	1'57"67	4.29
2	庄司 一郎 (3 年)	1'57"75	8.1
3	橋本 淳 (2 年)	2'00"70	8.1
4	割沢 高行 (2 年)	2'01"29	10.2
5	新井 邦生 (2 年)	2'01"6	3.27

男子 1500m

1	松本 翔 (1 年)	3'57"98	8.1
2	新井 邦生 (2 年)	3'58"21	8.1
3	中原 健二 (3 年)	4'05"24	5.22
4	庄司 一郎 (3 年)	4'07"97	10.2
5	千島 悠司 (2 年)	4'11"49	5.22

男子 5000m

1	松本 翔 (1 年)	14'30"82	5.17
2	村田 拓哉 (3 年)	15'24"03	10.2
3	新井 邦生 (2 年)	15'28"59	10.2
4	宮崎 哲平 (3 年)	15'43"63	6.27
5	片岡 哲朗 (2 年)	15'44"95	10.2

男子 10000m

1	松本 翔 (1 年)	30'02"19	9.25
---	------------	----------	------

男子 110mH

1	田中 啓 (4 年)	14"8(-0.3)	9.18
2	梅沢 啓 (2 年)	15"80(-1.3)	5.16
3	林 盛 (2 年)	16"5(-0.3)	9.18
4	吉岡 和夫 (4 年)	16"98(+1.2)	9.19
5	持永 新 (2 年)	17"28(+0.3)	9.10

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (2 年)	57"21	10.2
2	坂田 祐輔 (2 年)	60"67	10.2
3	磯部 洋輔 (2 年)	60"82	10.2

男子 3000mSC

1	深瀬 剛正 (4 年)	9'38"44	4.18
2	岡田 良平 (2 年)	9'43"43	8.1
3	山口 健介 (1 年)	10'12"03	8.8
4	中原 健二 (3 年)	10'18"39	7.11
5	山崎 大 (2 年)	10'23"69	7.11

男子 5000mW

1	春木 洋輔 (5 年)	22'04"56	7.31
2	深尾 宙彦 (2 年)	26'13"75	7.31

男子 10000mW

1	春木 洋輔 (5 年)	43'37"1	10.11
2	深尾 宙彦 (2 年)	51'56"1	3.28

男子 ハーフマラソン

1	松本 翔 (1 年)	67'09	7.4
2	門脇 充典 (3 年)	83'07	4.11

男子 走幅跳

1	藤田 靖浩 (4 年)	7m28(-0.2)	7.4
2	竹内 昌男 (2 年)	7m15(+0.8)	4.25
3	吉岡 和夫 (4 年)	7m01(+1.0)	9.18
4	相川 啓佑 (2 年)	6m91(+1.1)	9.18
5	佐野 太郎 (2 年)	6m83(+0.9)	9.18

男子 三段跳

1	藤田 靖浩 (4 年)	15m01	6.5
2	佐野 太郎 (2 年)	13m97	5.22
3	倉員 智瑛 (1 年)	13m63	10.2
4	林 盛 (2 年)	13m02	4.4

男子 走高跳

1	宮 正彦 (2 年)	1m95	7.11
2	田中 啓 (4 年)	1m90	5.22
3	藤田 靖浩 (4 年)	1m80	10.2
4	持永 新 (2 年)	1m70	9.9

男子 棒高跳

1	持永 新 (2 年)	3m80	9.20
2	佐野 太郎 (2 年)	3m20	8.1
3	関原 孝之 (1 年)	2m90	10.2

男子 砲丸投

1	合田 隆彦 (2 年)	10m88	4.25
2	小林 宗隆 (1 年)	10m73	10.2
3	持永 新 (2 年)	9m59	10.2
4	田上 遼 (2 年)	8m79	5.22
5	庄司 宇 (1 年)	8m69	10.2

男子 円盤投

1	合田 隆彦 (2 年)	37m71	5.22
2	持永 新 (2 年)	27m30	8.1
3	倉員 智瑛 (1 年)	26m73	5.22
4	庄司 宇 (1 年)	26m57	10.2
5	小林 宗隆 (1 年)	26m01	10.2

男子 ハンマー投

1	合田 隆彦 (2 年)	33m02	10.2
2	池田 大行 (4 年)	25m01	10.2
3	庄司 宇 (1 年)	18m01	10.2

男子 やり投

1	関原 孝之 (1 年)	48m22	9.18
2	池田 大行 (4 年)	47m46	10.2
3	田中 啓 (4 年)	42m97	7.11
4	持永 新 (2 年)	37m50	3.28
5	小林 宗隆 (1 年)	37m48	8.1

男子 十種競技

1	持永 新 (2 年)	5328	9.9,10
---	------------	------	--------

女子 100m

1	塩入 敦子 (4 年)	12"91(-0.6)	8.1
2	小原 明恵 (2 年)	13"19(± 0.0)	10.2
3	津村 瑛子 (4 年)	14"82(+1.3)	5.22

女子 200m

1	塩入 敦子 (4 年)	26"35(± 0.0)	9.10
---	-------------	--------------	------

女子 400m

1	塩入 敦子 (4 年)	58"42	8.1
2	目黒 亜由子 (4 年)	59"77	8.1

女子 800m

1	目黒 亜由子 (4 年)	2'16"0	6.13
2	塩入 敦子 (4 年)	2'18"83	10.2
3	向田 恵 (2 年)	2'28"20	5.22

女子 1500m

1	向田 恵 (2 年)	4'57"56	4.29
2	清水 理紗 (2 年)	5'27"6	9.18
3	河本 和美 (2 年)	6'01"40	7.11

女子 3000m

1	向田 恵 (2 年)	10'29"32	8.1
2	清水 理紗 (2 年)	11'46"13	8.1

女子 400mH

1	塩入 敦子 (4 年)	61"76	8.28
---	-------------	-------	------

女子 走幅跳

1	本間 諒子 (1 年)	4m65(+0.6)	9.18
2	小原 明恵 (2 年)	4m58(+0.9)	10.2

女子 走高跳

1	本間 諒子 (1 年)	1m30	8.1
---	-------------	------	-----

女子 棒高跳

1	本間 諒子 (1 年)	3m00	5.14
---	-------------	------	------

女子 砲丸投

1	本間 諒子 (1 年)	7m45	9.18
2	津村 瑛子 (4 年)	5m64	8.1

文責 中原健二

編集後記

京大戦・箱根予選会で4年生が引退となり、今回から新しい部便り係が部便りをお届け致します。これからの1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

部便り係一同